

## 2. <交流会>分科会

### ①【食と高齢者、多世代食堂について】NPO 法人 アテラーノ旭 理事長 遠藤 譲 氏

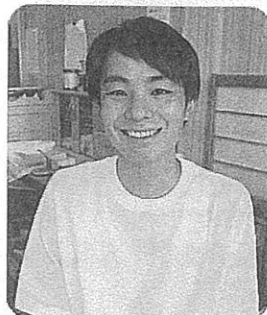
「アテラーノ旭」さんは、町の暮らしの真ん中にありました。

町の銭湯が廃業したことで、人と人の繋がりが希薄になってきたことを憂い、住み慣れた地域で安心して暮らしていける生活の中心に「アテラーノ旭」を設立。

ゆる〜い繋がりから確かな信頼になり、「まちのお茶の間」

「配食サービス」「こども食堂」や「フラット旭」など。

多世代交流の拠点で一緒に活動できる素晴らしい居場所になっています。この先もロジックモデルシートを作成し5年、10年後を見据えての街づくりは、2代目を引き継がれた若い理事長の元気がみなぎっていました。



私たちみのりは、年齢としての若さは足りないけれど、まだまだ「おいしいごはんを作るゾー！」の意欲は、残っていると信じています。住み慣れた地域で健康長寿を全うするために、お互い支え合いながら、社会参加できるみのりの活動は、私たち自身の健康の源です。誰もが頑張り過ぎず、一声かけることで一人を元気にすることができる。そんな「支え合う会みのり」を目指しています。

吉川 ひとみ

### ②【食と見守り活動 ネットワークづくりについて】

女性を元気にする会 代表 ゴージャス理枝 氏

沖縄本島内でシングルマザーや困っているママさんたちに無料で食料支援しています。

食べることに困っている人達が自分の身近にいるけれど気が付かない人が多い。

自分がエステティシャンだから、家族みんなで楽しめる「トータルビューティーフェア」を500円で実施し、女性のSOSを聞き、必要な支援をする対象を見つけました。

最初に面談をします。4時間ぐらいかかる人もいます。話の中で、物質だけでなく、精神的・心理的サポートも大きな意義があることがよくわかります。

SNSによる拡散は、支援を必要な人達への情報提供と同時に支援をしてくれるサポーターへの救援依頼にもつながっている。活動にとっては、有効な手段だと思う。

個人の生活基盤を確保し、エステティシャンの技能を駆使して活動の糸口とする方法

に感心しました。NPOの活動の多くに自分を犠牲にして自滅することが多いと聞くので、頑張りすぎないのは大事ななと思いました。



野口 貴美子

### ③【広域的な食支援構築】南オーストラリア州の配食サービス (MoWSA) と ミールズオンロジシステム (MOWLS) について

MoWSA は1954年設立し今も大規模な活動を続けています。

本部が職員により全支部の管理業務(苦情対応も含め)を行い、80カ所の支部は高齢者が中心となってボランティア活動をし、6,500人のボランティアが調理・配達を担って1日当たり4,638人の配食利用者へ届けているシステムができています。

MoWSAのボランティアは健康度も高いとの結果が出ているそうです。

又、配食利用者もボランティアとの交流をすることによって健康度が5%高くなるとの報告もありました。

みのりも配達時の利用者への声掛けが大切との認識を新たにしました。

MOWLSについては、オーストラリアではロジシステムができていますが、日本でも少しずつ拠点、冷蔵庫、冷凍庫、配送システム等々が整ってくれればと思いました。

田中 春江

